

# アトリエ 琉游舎 だより 146号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)

2023年2月1日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

立春大吉

# 立春大吉 日救急如律令

- 「立春の日に『立春大吉』と書いた紙を玄関に貼る」という厄除けのおまじないがあります。元々、禅寺で、新しい年の始まりの日に、1年の厄除けの願いを込めて「立春大吉」の御札を貼ったことから、おまじないとして広まったといわれています。
- 「立春大吉」が左右対称の文字なので、裏から見ても同じに見えます。節分では玄関にこのお札が貼ってあると、鬼が家に入っても、振り返った時また「立春大吉」というお札を目にし「この家にはまだ入っていない」と勘違いをして逆に出ていってしまうのです。
- お札によっては「立春大吉日 隠急如律令（りっしゅんだいきちじつ きゅうきゅうによりつりょう）」と書かれています。中国の漢時代に公文書の末尾に記される言葉で、「急いで律令のごとく行え」です。陰陽師や祈祷師が、悪霊退散などの呪文の最後に用いました。
- 季節の変わり目、一年の始まりのめでたい日の立春に厄災は立ち去り、願いが早急にかないますように」という意味のようです。立春は「二十四節気」の1つで、暦のうえで春の始まりを意味します。つまり新年です。旧正月と立春は同じ日と混同されやすいのですが、旧正月は月の運行を基に決められています。立春は太陽の動きを基に季節を24の節気に分けた、その始まりの日です。このように、2つは全く異なる基準で決められています。
- たくさん新年があって迷いそうですが、旧暦を用いていた頃は、正月もその暦で祝っていたはずですが、東アジアの中で日本だけが、なぜ旧正月を祝わなくなったのかについては不思議です。中国や韓国やベトナムなどでは旧正月は未だに新年ですが、日本人は太陽暦を西洋から取り入れた際、さっさと合理的な新暦に乗り換えたということでしょうか。
- 陰暦の旧正月が日本人から消え去っても、24節気の立春だけは未だに節分の翌日、豆まきの翌日ということで、私たちには印象づけられています。節分に行く豆まきは、季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立て、それを追い払う儀式です。
- 3年前は、新型コロナが猛威を振るい始めた頃でした。去年はもうしばらくするとウクライナ侵略が始まりました。今年こそは「立春大吉」の札に願いを込めて、私たちの周りの鬼だけでなく、私たちの中に棲む鬼も、勘違いでもいいから回れ右して、この地球から出て行って欲しいものです。そのために足下でできることから始める琉游舎の新春です。

写経会

2/5(日) 13時半

読書会

2/14・28(火) 13時半

琉游舎を自由にご利用ください(裏面の連絡先まで)

茶話会・趣味の会・音楽会・練習会・各種教室・座禅会など

2月2日・23日の映画会はお休みします

2/9 木	13時半	人間の絆 (83分)	サマーセット・モーム原作。自由奔放な女性と真面目な医学生。二人は愛に翻弄され、悲劇的な結末が待っていた。
2/16 木	13時半	砲煙と薔薇 (84分)	ゲーリー・クーパー主演。南北戦争中北軍のスパイのラブレスは黒人の女性に変装して南軍スチュアート將軍の率いる前線に入り込むが、...

先日、コリーナでは珍しく太平洋側の南岸低気圧による雪ではなく、強力な寒気がシベリアから下りてきた日本海側からの雪雲による降雪がありました。一日中氷点下となる近年にない雪です。例年であれば日陰以外の道路の雪は翌日には溶けてしまうのですが、今回は気温も低くなかなか溶けてくれないようで、コリーナ敷地内の下りの坂道で、スリップして路側帯にぶつけて破損した車を5年ぶりに目撃しました。矢板市でも最低気温がマイナス14度となり、近隣の市町村も軒並み観測以来の最低気温を記録したようです。大きな流れは地球温暖化の途上にあることは疑い得ないのですが、電気代、燃料費高騰の折、この寒さは身にも懐にも堪えます。道の凍結でリハビリ散歩もままならない、今年の冬はいつもと違う冬のようにです。

外見はよく見ると少し痩せたかなと思われるくらいで、経緯を話さなければ私はいつもと変わらない冬を過ごしているように見えるはずです。私自身、鏡を見ても以前と何も変わらない自分の顔を確認するだけです。昨年手術以来2ヶ月あまり、以前と同じ生活スタイルに早く戻りたいと少しずつリハビリに励んでいますが、体と意思（心）がなかなかマッチングしない日々、数え上げればきりがなくらいできないことだらけの冬です。できないことの一番は上半身に負荷をかけられないことです。胸骨を開いて手術をしたため、その骨がしっかりと接合して元に戻るまでは、重い荷物を持つことも、ラジオ体操で胸を開くことも、腕立て伏せも厳禁です。今回の降雪の雪かきも妻に止められ、家の前の道路はただ積もるに任せ、溶けるに任せたままでした。これでは当分山歩きも、畑で鍬を振るうこともできそうにありません。急激な温度変化も禁物なため、早朝の朝勤は朝食後に変更となり、寒い日の散歩も取りやめ、終日エアコンで一定の温度に保たれた部屋で過ごしています。ぬくぬくと温室暮らしの毎日で、心身に負荷をかける行為を忌避する毎日です。

日蓮宗には法華経の「色読」という考え方があります。仏教用語で「色」は物質的存在、身体作用を意味します。故に「法華経の色読」は法華経を教え通りに正しく読み取って実践修行することです。「身読」ともいい、自らの行為によって法華経の教えを体現する行いです。日蓮聖人は法華経の行者として鎌倉時代の宗教的政治的な圧力に抗して正法（お釈迦様の正しい教え）によってのみ民衆が安らかに生きることが可能であることを主張し、その実現のために「行」って来ました。日蓮聖人の場合はその実践と実現が死後の浄土ではなく、あくまでも私たちの生きているこの社会（娑婆）での成就を目的とし、正法の実現を個人ではなく同じ国土に生きる社会全体にも分かち合おうとしたことが他宗派と大きく異なるところです。それ故に既存の宗教勢力やそれを支持する権力から大きな弾圧を受けることになったのです。聖人の行いは今に至るまで私たち日蓮聖人の弟子たちに正法（お釈迦様の正しい教え）と国法（権力）の関係を問い続けています。

私は法華経の色読の教えを、今私の生きる時代（時）、社会（国）、教えを受け入れる人々の素地（機根）の中で実践して行く必要があると考えます。日蓮聖人は「教機時国抄」で「**教**えと、人たちの能力や心構え（**機**）、**時**代にかなっているか、**国**情はどうか」を見極めた上で布教するべきだと述べられています。日蓮聖人の行いはそれらを踏まえた上での実践です。それが法華経の色読です。ところがその弟子たちは実践の方法だけを忠実に受け継ぎ、時の権力に闇雲に正法を問い続けてきたため、何度も弾圧に遭って来ました。その結果日蓮の教えは排他的独善的で戦闘的だというイメージがついてしまったのです。「**教**・**機**・**時**・**国**」を理解せず、つまり私たちが今生きている社会環境（娑婆）と人々を理解せずには、色読は成立しないのです。私たちは日蓮聖人の生きた時代のままに法華経の色読することは不可能ですし、その必要もありません。今生きている時代の「**教**・**機**・**時**・**国**」を正しく余すことなくありのままに観ることが必要なのです。それは、日々をありのままに観てありのままに行うことなのです。特別な宗教生活や、出家者としての特別な修行が存在するわけではなく、日常を豊かに楽しく心安らかに過ごすことに生きることなのです。その生活が私だけでなく、私に関係のある人たちにもその毎日を分かち合い共有できると信じて日々を生きることなのです。

私の法華経の色読理解は、聖人の教えを歪曲するものと教団や信奉者から批判されることに躊躇はありません。私の色読は教団や日蓮聖人のものではなく、私が必要とする私のための色読だからです。私はこの2ヶ月の再誕に至る過程で新たな教えを得ました。最初の一ヶ月はほとんど動くことができず、ベッドの上で過ごしました。その後の一ヶ月も、意思（心）と体が一つにならずに、意思だけが逸り、身体がついて行けない状態にもどかしさを覚えました。その時、身体が意思に対してゆっくりと時を待ちなさいと諭し始めたのです。そこで理解したことは、身体は意思が動かすものであるとともに、身体が意思を動かすという事実です。心身一如、心身不二です。この事実は私には大きな発見でした。今までありのままに観ることにすべてを傾けていたのですが、それがありのままに行うという身体行為に結びつかないという現実と直面したのです。動きたくても動けない、歩みたくても歩めない、ならば心身が合一するその時が来るまで待ちなさい。不思議なもので、待つことを理解してからは分離していた体と心が、日々合一に向かっていることが実感できるようになったのです。私は病を契機に再誕することとなりました。何を教えとして知りそれを再誕後の日々

に生かしていくかが、なぜ私がこうやって今でもお釈迦さまに生かされているかという意味を問うことになるはずです。私の法華経の色読は心身一如であること、それは「**教**・**機**・**時**・**国**」を **琉游舎：戸井 出琉・恭子** 知り、そのままに行った時に初めて可能となることを知りました。心身合一 **問い合わせ：0287-53-7848 08033508152** に向けて日々を歩むことはまた、私の安らぎのところの回復、リハビリに **矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850** による社会復帰の過程と呼ばれるものなのでしょう。 **メール：toi101izuru@outlook.jp**